

今週の為替相場見通し(2020年12月21日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		102.88 ~ 104.15	103.31	102.00 ~ 104.50
ユーロ	(ドル)		1.2110 ~ 1.2273	1.2260	1.2150 ~ 1.2300
(1ユーロ=)	(円)		125.73 ~ 127.01	126.58	125.50 ~ 127.30
英ポンド	(ドル)		1.3270 ~ 1.3625	1.3528	1.3200 ~ 1.3650
(1英ポンド=)	(円)	*	138.27 ~ 140.45	139.71	138.00 ~ 142.00
豪ドル	(ドル)		0.7508 ~ 0.7639	0.7624	0.7500 ~ 0.7750
(1豪ドル=)	(円)	*	78.13 ~ 78.83	78.76	77.50 ~ 80.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1)今週の予想レンジ: 102.00 ~ 104.50 円

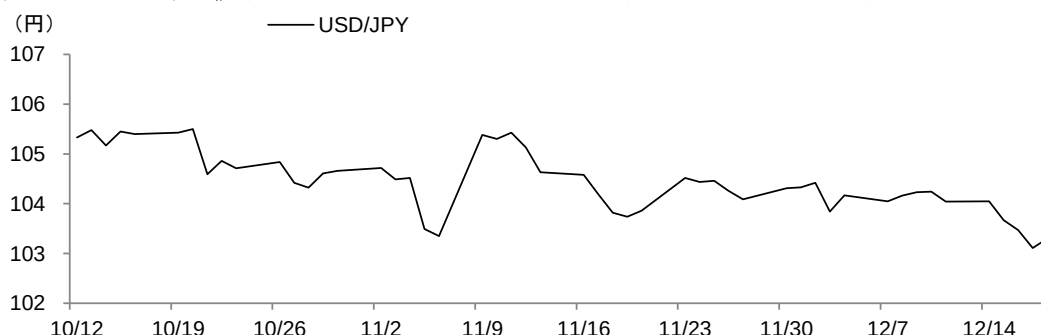
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は下落する展開。週初14日、103円台後半でオープンしたドル/円は、週末にジョンソン英首相と欧州委員長の電話会談で通商交渉を継続することで合意したことを受けて欧州通貨が上昇し、ドル売りが優勢となると103円台半ばまで下落。しかしその後は、ドルの買戻しも強まる中、ドル/円は104円台まで急伸。15日には、ドル/円は一時週高値となる104.15円をつけるも、欧州通貨に対するリスク志向のドル売りや米12月NY連銀製造業景気指数や米11月輸入物価指数の悪化を嫌気すると、103円台後半まで下落した。16日は、株式市場の堅調推移や欧州通貨の買いに、ドル/円は一時103.26円まで下落したが、持ち高調整のドル買いが進むと103円台後半まで上昇した。その後、注目されたFOMCでは、予想通り政策金利の据え置きとなるも、パウエルFRB議長のハト派色の強いコメントにドル売りが強まり、ドル/円は103円台前半まで値を下げた。17日にかけてもドル売り優勢地合いが継続する中、ドル/円は一時週安値となる102.88円まで下落した。週末18日は、日銀金融政策決定会合は予想通りの結果となり、特段取引材料とならず、実需のドル買いにサポートされ一時103.59円まで上昇。海外時間では、米追加経済対策協議の行方が注目される中、様子見ムードが強く、103円台半ばでレンジ推移し、103.31円で越週した。

今週のドル/円相場は引き続き上値が重い展開を予想する。先ほど米マコネル氏による約9000億ドルの経済対策で合意成立とのヘッドラインが発表されたものの、その後米下院は経済対策法案を20日夜に採決せずとのヘッドラインが発表され、追加経済対策法案の年内成立について引き続き留意が必要。また、先週行われたFOMCでは現行の政策維持が決定され、2023年まで実質ゼロ金利政策維持の方針を改めて示されたことにより、FRBの金融緩和政策が長期化するとの思惑から、積極的なドル買いとなる展開は考えづらい。米国においてワクチン接種が開始されたものの、新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、こちらもリスク要因となり、今週も引き続き上値重い展開となるか。重要指標の発表は22日(火)に米3Q GDP、米3Q 個人消費、23日(水)に米11月中古住宅販売件数、米12月新規失業保険申請件数、米11月個人支出・個人所得、24日(木)に米11月新築住宅販売件数、25日(金)に日11月失業率、日11月有効求人倍率の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/14~12/18)の値動き: 安値 102.88 円 高値 104.15 円 終値 103.31 円



2. ユーロ

金融市場部 グローバルFIチーム 木村 優太

(1) 今週の予想レンジ: 1.2150 ~ 1.2300 125.50 ~ 127.30 円

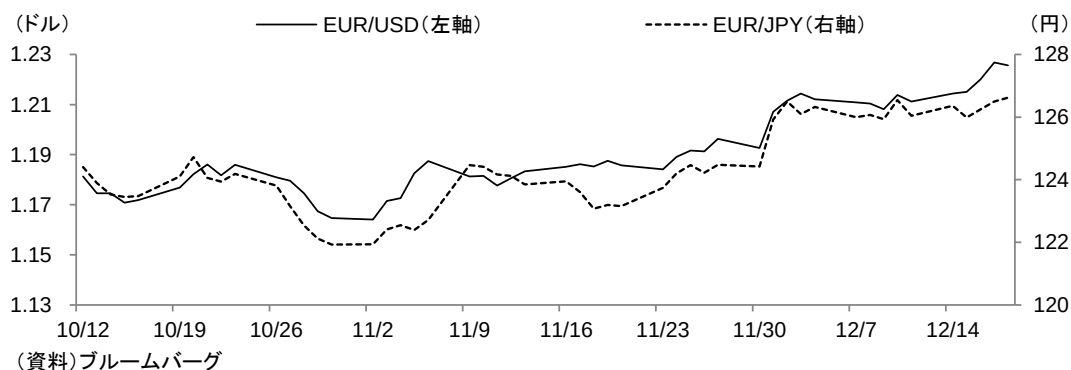
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週を通して上昇する展開。週初14日はオセアニア時間に週安値の1.2110をつけ、東京時間は1.2133でスタート。週末にイギリスとEU間の通商交渉が継続するとの報道がでたことによる対ボンドでのドル売りの影響を受けて一時1.21後半まで上昇するも、その後ドルの買い戻しが進み再び1.21前半に下落。15日はブレグジット協議関連のニュースで1.21前半を上下する展開。海外時間には楽観的な見方が強まりボンド買いが進行したものの、ユーロ/ドルはFOMC前の様子見ムードから上値重く、1.125近辺での揉み合いとなる。16日はユーロ圏、ドイツ、フランスの12月PMIが予想を上回ったことが好感され1.22台まで上昇。その後FOMCで、一部から期待されていた追加の資産買い入れがなかったことから米金利が上昇し、一時的にドル買いが進展したことで再び1.21前半まで下落する。しかし、パウエルFRB議長の会見でハト派姿勢を示したことで反転上昇し、1.22台まで再浮上した。17日は前述のパウエル議長のハト派姿勢を受けてドル売り地合いが継続。ペロシ米下院議長の発言から米景気対策協議に進展期待が高まったこともリスクオンのドル売りを後押しし、週高値の1.2273をつける。18日は特段の材料がないなか、年高値を更新して推移していることや年末に向けて流動性が減っていくことへの警戒感から確定売りが持ち込まれるも、1.22前半ではユーロ買い圧力も強く、1.2260で越週となった。

今週のユーロ/ドル相場は調整売りにより上値重い推移となることを予想。今月10,11日のECB政策理事会で追加金融緩和を発表して以降、各国中銀が更なる金融緩和を発表することへの期待感が高まり、また先週のFOMC後の会見にてパウエル議長が足元の経済状況を楽観視していないことから金融緩和体制が長引くとの見方を強まったことで、ドル売りに拍車がかかる形になった。長期的には世界的なドル売りの流れは継続すると考えられる一方、流動性が枯渇する年末に向けてこれ以上ドル売りのポジションを大きくするリスクは取りにくいと思われる。まず先週ブレグジットに関しては、協議継続を受けて状況を楽観視する見方が強まったものの、現状では協議が合意に達しない可能性が高いと伝える報道もあることから予断を許さない状態と言える。また新型コロナに関しても、クリスマス前に英国で変異ウイルスが拡大するなど不確実性が高まっている。これらの理由から、今週はポジションの巻き戻しでドル買いが一定程度進み、週後半にかけて値幅が小さくなっていくと予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/14~12/18)の値動き: (対ドル) 安値 1.2110 高値 1.2273 終値 1.2260
(対円) 安値 125.73 高値 127.01 終値 126.58



3. 英ポンド

欧州資金部 ジョセフ マクルヒル

(1) 今週の予想レンジ: 1.3200 ~ 1.3650 138.00 ~ 142.00 円

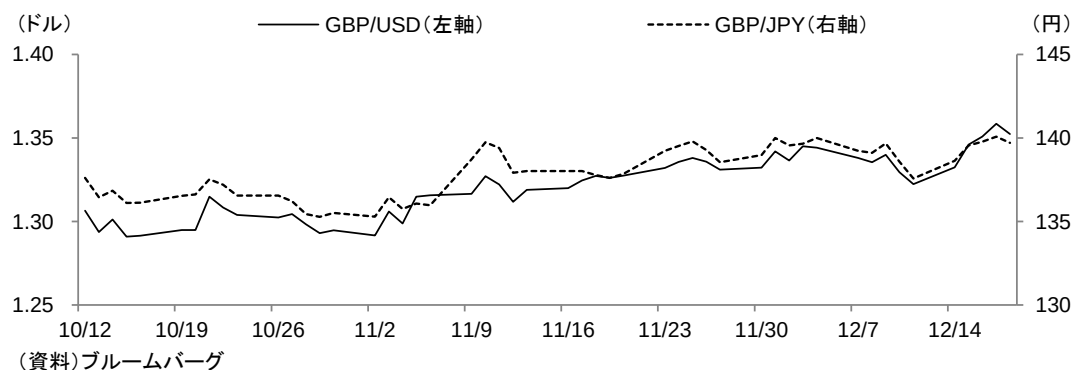
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のポンド相場は、上昇。週明けは、13日までとされていた英国とEUとの通商協議について、13日の協議後に双方が継続することに合意したという報道を受けてポンド買いが再燃し、堅調な滑り出しで幕を開けた。その翌日に観測されたポンド安は、特に材料は見当たらなかった。イギリス固有の要因を挙げるならば下落した当時は、ロンドン市が感染の「ティア3」適用の報道もあり国内の感染拡大の深刻化と、英欧貿易交渉についてニュースがなかったことが「進展なし」という悲壮感につながったこと、という二つは考えられた。その後、間違いなく後者だったと確信できたのは、同日の夕方に流された「英国はEUとの合意の方向に傾いている」という英BBCの政治記者のツイートと、それに伴ったポンドの急騰である。本報を受けてポンド相場は、水曜日のロンドン時間正午過ぎまで買いが入り、対ドルでは一時1.3550、対円では140.30円まで上値を伸ばした。16日のイギリスの夜分に開かれたFOMC後の会見も結局ハト的な内容となり、市場全般のドル安の流れがいつそう強まり、これを受けてポンドドルは2018年5月以来の1.36台乗せとなった。乗せた途端に案の定、利益確定のポンド売りが入り、1.3550付近まで戻ったのだが、ロンドンクローズ後にゴープ英内閣府担当相がEUとの通商協議が25日の数日間後まで継続されることを述べるとポンド買いが再燃し、しばらく1.36台定着となった。この日にも、英中銀は事前予想通り金利および資産買入枠を据え置いた。週引けは、バルニエ氏が通商協議にはまだ大きな障害が残っていると発言したことでポンドは売られ、1.35付近でロンドンで取引を終えた。

今週は、方向感の出にくい展開を強く予想する。簡潔に言うと、通商交渉協議の期限が新しく延ばされた「クリスマスの数日後」が来週におさまらないからだ。合意に近づけるだけでこれだけ時間を要した通商交渉が、土壇場になる前に片づくはずがない、と誰もが思うではないか。もちろん、ヘッドラインに振られる値動きが継続することも予想するが、結局1.32-1.36のレンジでの膠着状態となり、それを上抜けるか下抜けるかは、28日(月)以降となろう。22日(火)には英9~12期GDP(確定値)が発表されるが、大して材料視されない見込み。なお、英ポンドは25日(金)クリスマスで休場となる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/14~12/18)の値動き: (対ドル) 安値 1.3270 高値 1.3625 終値 1.3528
(対円) 安値 138.27 高値 140.45 終値 139.71



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 小野崎 順基

(1) 今週の予想レンジ: 0.7500 ~ 0.7750 77.50 ~ 80.00 円

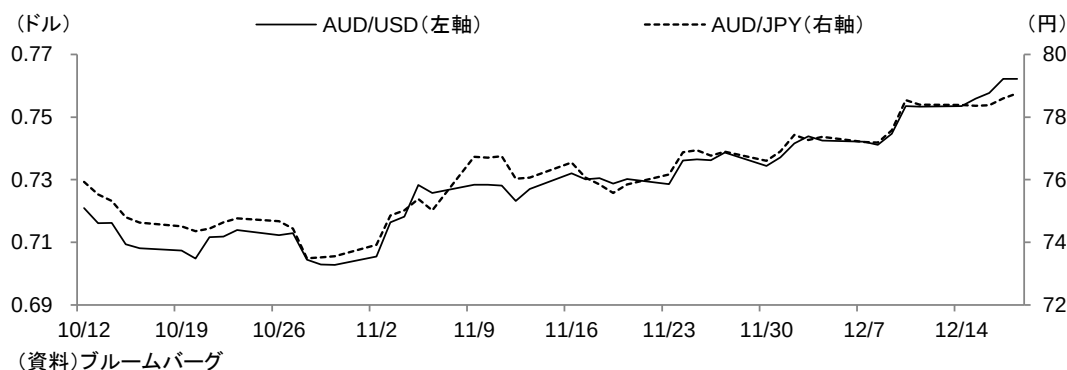
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.7549でオープン。14日は0.75台半ばを挟んだもみ合い。堅調な株価を横目に0.7550台まで小高く推移した後、ブレグジットへの楽観的なヘッドラインや米国における新型コロナウイルスワクチンの接種開始などを背景にNYダウが一時過去最高値を付けるなどリスクオフの展開に一時0.7580近くまで上昇したが、英国で1,000人超が新型コロナ異変種に感染したことが確認され、ロンドンが最も厳格な制限段階へ移行することが発表されたことや、NY市長が全面ロックダウンの可能性について発言したことが、リスクセンチメントを悪化させ0.7535近辺まで売り戻された。15日は、人民元が2週間ぶり安値を記録する中、連れ安の展開に一時0.7500台まで下落。その後、人民元に買い戻しの動きが入ると豪ドルも下げ幅を縮小。海外時間に入り米株が再び最高値付近まで買い進めらると0.7560近辺まで上昇した。尚、公表された12月RBA議事録からはQE延長に関する新たな手掛かりは出てこず、相場への影響は限定的であった。16日は豪政府が中国の豪産大麦に高関税を課し輸入制限をしている事を不当としWTO(世界貿易機関)に提訴。神経質な展開が続いたものの、ロンドン時間にドル売りが強まると0.7580近辺まで上昇。FOMCでは政策金利が0-0.25%に据え置かれ、月額の債券購入額も1,200億ドルで据え置き。声明発表後は、資産購入の規模拡大が期待されていたためか、ドル買いで反応し豪ドルは0.7540近辺まで下げたものの、パウエルFRB議長がFOMC後の記者会見で「経済はかなりの期間の支援が必要」との見方を示し、「債券購入の拡大や残存期間のシフトは今後も可能」と再表明し、ハト派色の強いコメントにドル売りが加速し再度0.7580近辺まで戻した。17日は豪11月雇用統計が予想以上に良好な結果となったことを受けて一時買いが優勢となるも、勢いに欠き、0.7580台まで小幅上昇後、アジア時間帯はレンジ推移。欧州時間に入り英EU通商交渉への楽観から株価が一段と上昇し、ユーロが上昇幅を強めると米ドルは独歩安の展開。豪ドルも一時0.7639まで上昇し2018年以来の高値を付けた。18日は株価の下落とともにじりじりと値を下げ一時0.7580台まで下落した後は上昇に反転し、0.7624で越週。

今週は豪中関係に行方を気にしつつも豪経済の回復期待を背景に堅調な展開か。17日に発表された11月豪雇用統計では、新規雇用者数が9万人増と市場予想の5万人を上回り、失業率も6.8%と前回の7.0%から改善した。今月発表された豪指標は7-9月期GDPなども含め総じて経済の持ち直しを示しており、豪政府も来年の成長率見通しを4.5%増と上方修正している。他国と比べ新型コロナウイルスの感染者数も限定的であり早期経済安定化への期待は高まり豪ドル買い意欲が高まる可能性が想定される。一方で、豪中の通商関係は改善されていない。これまでも中国は牛肉や大麦など豪州産の輸入品に規制や追加関税をかけていたが豪州産石炭を輸入禁止をするとの可能性も報じられた。豪州にとって中国は最大の貿易相手国であり、このような措置が続くと他国と比べ新型コロナウイルス感染を押さえ込んだにも関わらず豪経済の回復期待の剥落といった可能性には注視したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/14~12/18)の値動き: (対ドル) 安値 0.7508 高値 0.7639 終値 0.7624
(対円) 安値 78.13 高値 78.83 終値 78.76



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。